

大賞は、『墨に五彩あり—墨の不思議な魅力』綿谷正之（京阪奈情報教育出版）に決まりました。部門賞・特別賞も決まり、11月11日（土）にアルカディア市ヶ谷で表彰式が行われます。受賞作品の詳細はJSNのホームページまで。https://www.jsjapan.net/pages/award_history2023

□□ _____ □□

2. お知らせ … 日印産連と全印工連が文化賞やアドバイザー講座等の宣伝に協力

□□ _____ □□

9月6日の第26回日本自費出版文化賞受賞作品発表会にご出席いただいた日本印刷産業連合会（日印産連）の小澤専務理事から翌日電話があり、日印産連の会報誌『JFPIREPORT』に文化賞募集広告を1頁掲載していただけると一報が入りました。

また、全日本印刷工業組合連合会（全印工連）も、鳥原久資副会長（当会鳥原由美理事の夫君）のご尽力で「（全印工連の）三役会並びに常任理事会で日本自費出版ネットワークへの宣伝等の支援が認められました」と報告がありました。具体的には、機関誌『日本の印刷』送付時のチラシ等の同封やメルマガへの掲載などが可能となりました。

□□ _____ □□

◆◆◆ 「自費出版アドバイザーの会」からのお知らせ ◆◆◆

本号より不定期ですが「自費出版アドバイザーの会からのお知らせ」コーナーを設けました。

「自費出版アドバイザーの会」は、JSN認定のアドバイザー1級試験合格者の有志による団体で、自費出版制作をアドバイスできる専門家が、日本の自費出版文化を支えるという使命感を持ち、切磋琢磨する集団として設立したものです。月に1回程度のペースでオンライン会議を開き、自費出版アドバイザー試験やアドバイザー向け講座の運営について話し合っています。

また、自費出版文化賞の選考や表彰式のサポートなど、自費出版ネットワークの活動を下支えする団体としても活動しています。

□□ _____ □□

3. トピックス … 自費出版アドバイザー試験に過去最高の44名受験

□□ _____ □□

今年の自費出版アドバイザー試験に過去最高の44名の方が受験しました。

1級には8名（会員2名・会員外6名）、2級には36名（会員16名・会員外20名）が受験し、

1級は6名合格、2級は全員合格となりました。

合格された方、おめでとうございます。

1級合格者の方には、11月11日（土）の「日本自費出版文化賞表彰式」の会場にて、中山千夏代表理事による認定証授与式を行います。

□□ _____ □□

4. お知らせ …… 第41回自費出版アドバイザー講座決定
（申し込みチラシ添付）

□□ _____ □□

自費出版アドバイザー認定試験 受験資格該当研修会
第41回自費出版アドバイザー講座

『どうするその原稿 —自費出版の料理法—』

自費出版の原稿を、どのように料理して一冊の本にしていくか。

最初の相談から本ができるまでの流れを、数多くの自費出版を手掛けるパレードブックスさんにお話しいただきます。

自費出版の仕事に関心のある方や、すでに実務としている方なども、幅広く本づくりについて学べる講座です。

■講師 株式会社パレード出版部 パレードブックス 下牧 しゅう 氏

■日時 2023年11月30日（木）15時00分～16時40分

■場所 ジャグラ本部 会議室
東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル8階
（東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 4番出口より徒歩3分）

■研修費
日本自費出版ネットワーク会員 2,000円
ジャグラ会員、全印工連会員は2,500円
その他一般の方は 3,000円

当日は、「YouTubeライブ」で限定生配信を予定しています。
会場に来られなくても質問はチャットで参加できます。
お申し込みいただいた方に、視聴先URLをメールでお知らせします。
また、12月6日（水）までアーカイブ動画を視聴できるので、お気軽にお申し込みください。

■申込み NPO法人 日本自費出版ネットワーク事務局
電話 03-5623-5411 FAX 03-5623-5473 メール pp@japan.email.ne.jp
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7F

申込締切日：11月22日（水）
お申し込みは日本自費出版ネットワークまでFAXまたはメールでお送りください。
※お申込み後、研修費のご請求書をお送りいたします。

□□ _____ □□

☆ 自費出版事情… ～会員便り～No.69

□□ _____ □□

共同プリント株式会社
住田 幸一

このたびは、弊社の「墨に五彩あり～墨の不思議な魅力」が第26回日本自費出版文化賞大賞を受賞することとなり関係者一同飛び上がって喜んでおります。
書道用品メーカー「呉竹」の創業者一族として生まれ、筆ペン開発も担当された著者から「生涯をかけた墨の研究と経験を1冊にしたい」と原稿を託されたのは5年前のことでした。途中コロナ禍もあったとはいえ、その思いがかたちになるまで長い年月が必要でした。墨づくりの第一線での積み重ねによる原稿は、多岐にわたり膨大な情報量でした。
そんな原稿を前にして編集ではいつも次のように言われることを心がけています。
「著者の次にわかってるね」「わかりやすくなったね」「目次をみてこの本がわかるね」どれも当たり前のことばかりですが…。
第18回の「絵双六」につづいて2度目の大賞受賞は、ひとえに素晴らしい著者とのご縁に恵まれた結果であり、大変光栄に思います。今後の本づくりにもこの経験を活かしてゆきたいです。
ありがとうございました。

追伸) 東京の奈良まほろば館で大賞展示イベント決定!!
11月11日（土）より、東京新橋にある奈良まほろば館にて、「墨に五彩あり～墨の不思議な魅力」（綿谷正之著）の大賞受賞記念展示をします。お近くにお越しの際は是非。

□□ _____ □□

☆ 知っとこ高知 その4

□□ _____ □□

土佐の戦国時代

皆さん、NHK大河ドラマ「どうする家康」はご覧になっていますか。
ウチは妻が嵐の松本潤の大ファンで、テレビドラマ「花より男子」が映画化されたときは映画館に10回以上も見にいったほどなので、「どうする家康」も当然のように毎週欠かさず家族そろって食い入るように見えています。
しかし、ドラマでは当時の高知や四国のことがほとんど触れられていませんので、今回は戦国時代の頃の高知について資料をもとにお伝えしたいと思います。

室町時代後期は、足利一門の細川氏が有力な守護大名として土佐を支配していました。
応仁の乱以降は土佐も戦国争乱の時代となり、その後、京都から下向した一条氏が中村市（現在の四万十市）に土着し、支配を展開していきます。「土佐の小京都」といわれる街並みや独特のアクセントの幡多弁はその名残りです。
当時は一条氏のほかにも土佐の七雄（本山氏・安芸氏・津野氏・吉良氏・長宗我部氏・香宗我部氏・大平氏）と呼ばれる国衆が割拠する時代でしたが、一番勢力の弱かった長宗我部氏が元親の時代に勢力を伸ばし、土佐を統一し阿波に侵攻します。
長宗我部元親は織田信長と当初は友好関係にあったものの、信長から阿波の占領地半分を三好氏に返還するよう迫られ、それを不服としたため、信長が四国征伐に乗り出します。
このとき元親と信長の仲介役だった明智光秀がこの四国征伐で面目をつぶされたことが本能寺の変の引き金になったという説もあります。
その後、元親は讃岐と伊予も平定し四国をほぼ統一しますが、豊臣秀吉の四国攻めで降伏。土佐一国だけを安堵されます。
翌年、秀吉の九州征伐に従軍しますが、長男の信親が討死。結局、家督は四男の盛親が継ぎますが、関ヶ原の戦いで西軍につき、大名から浪人へ転落。大阪夏の陣でも敗北し、家族もろとも斬首され、長宗我部氏は滅亡します。
その後、掛川から山内一豊が移封となり、幕末まで山内家の統治が続きます。
山内家の家臣は「上土」、長宗我部の遺臣団が「下土（郷土）」と呼ばれ、その徹底した差別・身分制度への不満が幕末から明治維新への原動力の一つになっていくのです。

リーブル出版（株式会社リーブル）
代表取締役 坂本 圭一朗

★あとかぎ

自費出版文化賞やアドバイザーの会からのお知らせやら、と盛沢山のメルマガになりました。
来月は自費出版文化賞表彰式が行われますが、大賞作品をはじめ素晴らしい作品を目の当りにして手にすることが楽しみです。

そして土佐の戦国時代からの夜明けではありませんが、日印産連や全印工連からもこの自費出版ネットワークへの協力が得られそうで、大きな力になり、さらにこのネットワークが広がっていくことを願っています。

最後までお読みくださりありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

◆日本自費出版ネットワーク事務局
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階
電話：03-5623-5411
FAX：03-5623-5473
<http://www.jsjapan.net/>

過去のメールマガジンはコチラからご覧になれます
↓

